

岩手県の 土地改良

2019(10月) No.581

■発行所／岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

■編集発行人／千葉 匡 ■印刷所／永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>



CONTENTS

- 本会第17期役員が決定 2
- 宮崎雅夫氏が参議院選挙において当選を果たす 4
- 農を守り、地方を創る予算確保に向け一致団結 4
- 農業農村整備予算の確保を要請 5
- いつどこでも起き得る大災害に備えて 5
- 複式簿記会計の理解を深める 6
- 土地改良区の組織強化のために 6
- 奥寺堰の歴史に触れる 7
- 水土里ネット親睦ソフトボール大会開催 7
- 次世代を担う農業農村工学技術者の育成 8
- 水土里情報システムをスマート農業祭トリニティ
に出展 8
- 非補助農業基盤整備資金のご案内 8

「おこめさん、くすぐったいわ」 長谷川 亜希子
平成30年度「農村景観」写真コンクール 人物部門 最優秀賞



本会は8月5日、令和元年度臨時総会を開催した。

総会には、達増拓也岩手県知事をはじめ、東北農政局長の代理として加藤公平地方参事官、岩手県農林水産部 伊藤啓治農村整備担当技監、東北農政局農村振興部 村上豊土地改良管理課長にご臨席をいただいた。



【挨拶する及川会長】

開会にあたり及川正和会長は、「7月の参議院議員選挙で、全国水土里ネット会長会議顧問である宮崎まさおさんが我々土地改良の代表として当選した。皆様方のご支援とご協力に感謝申し上げます。さて、我々第16期役員は、この8月末に任期満了を迎えることとなるが、今後



【総会で議事を進行する阿部理事長】

も、農業の競争力強化に向けた政策目標や、国の謳う農政新時代への対応、そして多発傾向にある自然災害への対応に向け、国や県、関係機関と連携し、役職員一丸となって努力していく必要がある。会員各位の更なるご支援とご協力をお願い申し上げます」と挨拶した。

総会では、紫波東部土地改良区の阿部萬太郎理事長を議長に選出し、定款の一部改正、平成30年度事業報告及び一般会計収支決算について審議され、原案のとおり可決承認された。

また、任期満了に伴う役員の改選が行われ、理事10名、監事3名が満場一致で選任された。

なお、新役員の任期は令和元年9月1日から令和5年8月31日までの4年間となっている。

【岩手県土地改良事業団体連合会 第17期役員名簿】

職 名	氏 名	所 属	広域振興局
会 長	小田島 峰 雄	猿ヶ石北部土地改良区理事長	県 南
副 会 長	大 宮 惇 幸	雫石町土地改良区理事長	盛 岡
副 会 長	小野寺 道 雄	照井土地改良区理事長	県 南
専務理事	千 葉 匡	学 識 経 験 者	
理 事	及 川 正 和	胆沢平野土地改良区理事長	県 南
理 事	及 川 哲 朗	岩手中部土地改良区理事長	県 南
理 事	山 下 正 勝	馬淵川沿岸土地改良区理事長	県 北
理 事	加 藤 正 明	小本川土地改良区理事長	沿 岸
理 事	阿 部 萬太郎	紫波東部土地改良区理事長	盛 岡
理 事	鈴 木 信 一	永沢土地改良区理事長	県 南
総括監事	井 上 良 一	岩手山麓土地改良区理事長	盛 岡
監 事	藤 原 幸 夫	一関東部土地改良区理事長	県 南
監 事	佐々木 保 郎	石鳥谷東部土地改良区理事長	県 南



会 長 小田島 峰雄
(猿ヶ石北部土地改良区)

岩手県土地改良事業団体連合会 第17期役員

任 期 令和元年 9 月 1 日
令和5年 8 月31日



副会長 大宮 惇幸
(雫石町土地改良区)



副会長 小野寺 道雄
(照井土地改良区)



専務理事 千葉 匡
(学識経験者)



理 事 及川 正和
(胆沢平野土地改良区)



理 事 及川 哲朗
(岩手中部土地改良区)



理 事 山下 正勝
(馬淵川沿岸土地改良区)



理 事 加藤 正明
(小本川土地改良区)



理 事 阿部 萬太郎
(紫波東部土地改良区)



理 事 鈴木 信一
(永沢土地改良区)



総括監事 井上 良一
(岩手山麓土地改良区)



監 事 藤原 幸夫
(一関東部土地改良区)



監 事 佐々木 保郎
(石鳥谷東部土地改良区)

宮崎雅夫氏が参議院選挙において当選を果たす



第25回参議院議員通常選挙が7月21日に投開票され、自民党参議院比例代表の公認候補として出馬した宮崎雅夫氏（都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問）が13万7千票を得て当選を果たしました。

氏は、土地改良は農業の発展はもとより日本の未来への礎を築くものであることを強く訴えており、氏が掲げる「大切な農地と水を守る」「農山漁村を災害から守る」「美しい農村漁村を守る」の3つの目標のもと、今後、国政で益々の御活躍が期待されます。

農を守り、地方を創る予算確保に向け一致団結

—『農業農村整備の集い』が開催—

6月5日、全国土地改良事業団体連合会（二階俊博会長）は、令和2年度農業農村整備事業関係当初予算の確保と、各種施策の着実な実施に向けて『農業農村整備の集い』を開催した。

吉川貴盛農林水産大臣をはじめ116名の国会議員、室本隆司農林水産省農村振興局長ほか多数の来賓の御臨席のもと、全国から土地改良事業関係者約1,200名が集結した。

開会に当たり二階会長は、「土地改良関係予算は、皆さんのご尽力と団結の力で平成30年度補正予算、令和元年度当初予算および臨時・特別の措置を含め6,451億円を確保することができた。これからも“闘う土地改良”を掲げ、農業に従事している多くの皆さんの期待に応えられるよう頑張っていく」と挨拶した。



【挨拶する二階全土連会長】

続いて、吉川農林水産大臣は、「土地改良事業の計画的・安定的な推進のため、当初予算の確保に全力で取り組んでいく。そして“強い農

業”“美しく活力ある農業農村”の実現に向け邁進していく」と祝辞を述べた。



【祝辞を述べる吉川農林水産大臣】

また、進藤金日子参議院議員（都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問）は、「今後の土地改良は、“農業政策”“地域政策”“防災政策”の3つが一体となって実施していくことが重要である。この実現に向け私も皆様と共に頑張っていく」と祝辞を述べた。

その後、宮崎雅夫都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問は、農業農村の情勢報告の中で「全国各地で地域の特徴を活かした特色ある農業を展開している。それを支える土地改良予算を確保するため、闘う土地改良はまだまだ続く。新しい令和の時代を迎え、これからも土地改良の闘いに挑戦していく」と力強い決意を述べた。

おわりに、『令和2年度当初予算の増額を図ること』など5項目の要請案文が全会一致で採択され、参加者一同がガンバロウを三唱し閉会した。

農業農村整備予算の確保を要請

— 東北・北海道土地連絡協議会が農水省、復興庁、財務省へ要請 —

東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会（会長：伊藤康志 宮城県土連会長）は、6月5日に農林水産省、6月6日に復興庁及び財務省に対し、「農業農村整備関係予算の確保並びに東日本大震災からの再生・復興に関する要請」として要請活動を行った。

今回の要請活動では、「農業農村整備関連当初予算の確保」や、「土地改良法改正に伴う土地改良区組織運営の適正化に向けた支援」、「多面的機能支払制度の推進と予算の確保」、「農業用ため池の管理及び保全に係る支援」について要請するとともに、東日本大震災からの再生・復興に関連し「農地・農業用施設の復旧・整備に必要な財政支援措置の継続」についても要請した。

農林水産省では、吉川貴盛 農林水産大臣へ要請を行い、吉川大臣からは「当初予算と補正予算を有効に活用して事業進捗を図り、農地の大区画化等を進めてもらいたい」とのコメントをいただいた。

復興庁では、渡辺博道 復興大臣へ要請を行い、渡辺大臣からは「復興・創生期間を終える来



【渡辺復興大臣(中央)に要請書を手渡す伊藤会長(右から3人目)】

年度以降の財政支援措置の継続や組織体制等について、今年3月に見直された『東日本大震災からの復興方針』に沿って検討を行い、年内には方向性を示したい」とのコメントをいただいた。

財務省では、寺岡光博 主計官と伊万里全生 主査に面会し、寺岡主計官から「農業農村整備事業の重要性について認識している。現場の声を農林水産省に上げていただき、この現場の声を踏まえて、厳しい予算状況であるが、有効な予算を編成していきたい」との話があった。

いつでも起き得る大災害に備えて

— 令和元年度災害復旧事業研修会を開催 —

6月10日、本会会議室において、岩手県農村防災・災害対応支援連絡会（会長：千葉和彦 県農林水産部農村建設課総括課長）主催の「令和元年度災害復旧事業研修会」が開催され、災害復旧に携わる県、市町村、土地改良区、コンサルタント、土地連の担当職員約120名が参加した。



【挨拶する藤村技術主幹】

研修に先立ち、藤村幸喜 県農林水産部農村建設課技術主幹兼水利整備・管理担当課長は、「平成30年は西日本で平成30年7月豪雨、9月には北海道胆振東部地震が発生するなど、大規模

な災害が発生した。平成30年に本県では豪雨による災害が6回発生し、暫定法に基づく災害申請は89箇所、申請額3億7千万円、査定額3億1千万円であった。近年の大規模災害の発生状況を見ると、いつでもどこで大災害が発生してもおかしくない状況となっている。本日の研修会では、農地・農業用施設災害復旧事業の解説や復旧工法の基本的事項を研修していただき、それぞれの場で生かしていただきたい」と挨拶した。

研修会では、県の担当者から『近年の被災状況』、『災害復旧事業の概要』、『最近の通知文書と改正内容』、『計画変更手続きの留意点』、『国庫補助金事務手続きの留意点』等について説明があったほか、『平成30年災害査定における事例』では、査定時の注意ポイントについて、具体的な事例を踏まえた説明があった。

また、本会職員から水土里情報システムや現地確認用タブレットについて、平成28年に発生した台風10号災害での活用や、今年度から提供を開始予定である「水土里情報システム公開版」活用の事例を紹介した。

複式簿記会計の理解を深める — 令和元年度複式簿記導入促進特別研修会が開催 —

9月19日と20日の両日、全国水土里ネット主催の『令和元年度複式簿記導入促進特別研修会』が、花巻市の「ホテル千秋閣」において開催され、会計業務に携わる県内土地改良区の役職員や県の指導担当者ら、約90名が受講した。

開会にあたり、開催県である本会の 菅野章 総務管理部長が、「今回の研修をしっかりと受講し、複式簿記の導入や会計事務に充分活用して欲しい」と挨拶を述べた。



【講師の佐々木係長】

研修は、佐々木利道東北農政局農村振興部土地改良管理課団体指導・資金係長が「新たな土地



【講師の田村参与】

改良区会計基準について」、佐藤渉岩手県農林水産部農村計画課総括主任主査が「土地改良施設の資産評価マニュアルの紹介と減価償却の実務」、田村栄二全国水土里ネット支援部参与が「土地改良区における基本的な勘定科目と仕訳について」他4項目、本会職員が「土地改良区複式簿記の基礎知識」について、それぞれ講義した。

受講者は、複式簿記会計への理解を深めるとともに、未導入の土地改良区受講者は「円滑に導入できるよう準備していきたい」などの感想を述べていた。

土地改良区の組織強化のために — 令和元年度水土里ネット職員研修会を開催 —

本会は、8月28日に令和元年度水土里ネット職員研修会を開催し、土地改良区職員など41名が受講した。

開会に当たり、千葉匡 本会参事から「一昨年、昨年と2回にわたる土地改良法の改正により、土地改良事業制度や土地改良区運営にかかる歴史的な制度改革が行われ、また、今年の2月には土地改良会計基準が改定されるなど、土地改良区をめぐる情勢はめまぐるしく変化している。そうした中、本研修が皆様のスキルアップはもとより、若手職員育成への活用など業務推進の一助となることをご祈念申し上げます」と挨拶した。

研修は、平野順子コーチングオフィス代表が、『相手の印象をアップするビジネスマナー』、『相手を大切にしたいコミュニケーションの基本』、『関係性構築のためのコミュニケーションスキル』、『相手の納得感を高めるわかりやすい伝え方』の4つをテーマに、ビジネスマ



【講師の平野順子氏】

ナーやコミュニケーションの基本、良い人間関係構築のためのテクニックの他、相手が納得する伝え方等を実習を交えて行われた。

参加者は、「笑顔の大切さ」や「正しく伝えることを意識したコミュニケーションの必要性」等を強く認識していた。研修後には、「日々の生活に生かせる研修だった」、「コミュニケーションを円滑にすることのコツがわかった」などの感想が寄せられた。

奥寺堰の歴史に触れる — 疏水百選ウォーキングin奥寺堰 —

8月31日、『疏水百選ウォーキングin奥寺堰』が開催された。

この催しは、奥寺堰の歴史や文化を散策しながら学んでもらうことを目的に行われ、今回で13回目を迎えた。



【挨拶する及川実行委員長】

開会にあたり、及川哲朗 大会実行委員長（岩手中部土地改良区理事長）が「昨晩まで雨であったが、皆さんの熱気で晴れ上がった。今日は、健康に留意して楽しんでいただきたい」と挨拶した。

この催しに、6歳から87歳までと幅広い年

齢の参加者131名が、それぞれの体力にあわせ、7kmと20kmのコースに分かれてウォーキングした。

参加者は、コースにある『旧奥寺堰取水口』、『石羽根ダム』などの農業用施設や、『和泉式部墓所』、『江釣子古墳群』といった史跡を見学し、農業用施設の役割や重要性を学ぶとともに、地域にまつわる歴史に思いを馳せている様子だった。

ゴール後、参加者は『完歩証』を受け取り、達成感から爽やかな笑顔がこぼれていた。



【ウォーキングする参加者】

水土里ネット親睦ソフトボール大会開催 — 県南・一関農村整備合同チームが優勝 —

本会は、9月26日、花巻市石鳥谷の「ふれあい運動公園」において、水土里ネット親睦ソフトボール大会を開催し、県内の土地改良区、県の現地機関の12チーム約210名が参加した。

菅原浩孝 花巻市農林部長の始球式で試合が開始されると、各試合会場で熱戦が繰り広げられた。

決勝戦は、県南・一関農村整備合同チームと山王海土地改良区との対戦となり、白熱した攻防の末、鉄壁の守備と強力な打撃力を有する県南・一関農村整備合同チームが優勝カップを手にした。



【白熱する決勝戦の様子】

《令和元年度 水土里ネット親睦ソフトボール大会トーナメント表》



次代を担う農業農村工学技術者の育成 — 岩手大学の学生が豊沢川地区の農業水利施設の役割を研修 —

本会は、6月6日、次代を担う若い世代に農業農村整備に係る理解醸成を図るため豊沢川地区において農業用施設の現地見学会を開催し、岩手大学農学部・農学部の濱上邦彦准教授、山本清仁准教授の引率のもと、同学部食料生産環境学科3年次生19名が参加した。



【豊沢ダム監査廊で説明を受ける学生】

研修では、豊沢ダムにおいてダムが花巻市及び北上市に跨る約4,250haの水田地帯に農業用水を安定供給していることや、監査廊がダムの漏水や揚圧力の状況を確認するためであること等について説明を受けた。

新田堰頭首工では、豊沢川の水をゲートの自動制御による管理で水路に引き込みかんがいしていることや、平成15年度に鋼製転倒ゲートからゴム堰に改修されたこと等の説明を受けた後、分土工や宮野目用水機場を見学し、ダムの水がどのようにして農用地まで届くのかを学習した。

最後に本会へ移動し、本会の業務概要のほか水土里情報システムについて説明を受けた。学生は、自らパソコンやタブレットを操作し、これまで見学した農業水利施設の位置を確認したほか、水土里情報に備わる各種機能を体験し、操作性の良さを実感していた。



【本会で水土里情報システムの説明を受ける学生】

水土里情報システムをスマート農業祭トリニティに出展 — 農業法人での活用等を紹介 —

本会は、8月23～24日に滝沢市の岩手産業文化センター「アピオ」で開催された「いわてスマート農業祭トリニティ」に水土里情報システムを出展した。

この催しは、岩手県が主催したもので、スマート農林水産業の普及を促進し、経営規模の拡大や新規就業者の確保、育成等につなげていくことを目的として、農林水産業者等に最先端の機器やシステム等を紹介した。

本会では、水土里情報システムの活用例として現地確認用タブレットと連携した多面的機能支払や中山間地域直接支払、荒廃農地調査等の現地確認機能や、農業法人向けシステムの作物や施肥情報の管理機能等を紹介した。

来場者は興味深く担当者の説明に耳を傾けていた。



【説明を受ける来場者】

非補助農業基盤整備資金のご案内 — 長期・低利の融資を活用しませんか —

日本政策金融公庫の非補助農業基盤整備資金は、国の補助を受けない非補助土地改良事業の地元負担金や農業集落排水事業で設置した公共枵から各家庭までの配管敷設等の工事に利用できます。詳しい内容については、日本政策金融公庫盛岡支店農林水産事業、岩手県農林水産部農村計画課または本会管理指導課までお問い合わせください。